

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：農林水産費 項：農業費 目：農業振興費

事業名【新】ぎふの米輸出拡大モデル確立事業費（R8分）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農產物流通課 輸出戦略係 電話番号：058-272-1111(内4066)

E-mail : c11444@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 6,700千円 (現計予算額： 0千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	6,700	3,292	0	0	0	0	0	0	3,408
決定額	6,700	3,292	0	0	0	0	0	0	3,408

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・県の食料自給率は25%に留まっており、県産米の増産が喫緊の課題となっている。
- ・県内の食料自給率は全国を下回っており、令和8年度からの新たな「ぎふ農業活性化基本計画(仮称・令和8年3月策定予定)」において、食料自給率の向上を最重要課題とし、中でも米の生産拡大に重点をおいている。
- ・一方、国内では人口減少に伴い米需要の減少が見込まれ、米の増産を支えるための海外需要の開拓が必要である。
- ・米は全国で生産されていることから国内他産地と競合するため、岐阜県の強みを活用し、販路拡大を推進する。

(2) 事業内容

- ・令和8年から10年の3か年で地域商社を軸として、香港、台湾等の県産米の輸出拡大の基盤づくりを推進する。
- ・令和7年度に地域商社を通じて実施したターゲット国の市場調査を参考に、地域商社による「ぎふブランド」としての販路を開拓。
- ・寿司用専用米、どんぶり専用米など、用途専用米の開発や米の品種、用途に応じ、適した水量、炊き方等の研究を行い「売れる米」の商品づくりを行う。
- ・海外の販売店等との連携による県産米のPRを実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県産農畜水産物の輸出の拡大を目標に掲げる岐阜県にとって、岐阜県産米の販路拡大は急務であり、県として実施する必要がある。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	6,700	業実施委託料
合計	6,700	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和8年3月策定予定）
第4章 <基本方針3> (1) <実需者・消費者に至る販売チャネルの多様化>

(2) 国・他県の状況

国において、農林水産物の輸出を2020年までに1兆円、2030年までに5兆円とすることを目指し、国別・品目別輸出戦略を策定するなど、農林水産物の輸出拡大に取り組んでいる。

(3) 後年度の財政負担

ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和8年3月策定予定）の目標年（令和12年度）まで

(4) 事業主体及びその妥当性

県産農産物の海外販路の開拓・拡大には県のリーダーシップが不可欠であり、県が実施主体となることは妥当。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
令和12年度までに県産米の輸出量を2,650トンに増量

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R6)	R8年度 目標	R9年度 目標	終期目標 (R12)	達成率
県産米の輸出量	664	300	500	2,650	25.1%
	トン	トン	トン	トン	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和5年度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和6年度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	・国内市場の縮小が見込まれる中、県産米の輸出促進及びブランド力向上のため、実施する必要性は高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

- 事業が直面する課題や改善が必要な事項

・インバウンド客への認知・定着のため、継続して事業を実施する必要がある

(次年度の方向性)

- 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
 - 国内では人口減少に伴い米需要の減少が見込まれ、米の増産を支えるための海外需要の開拓が必要である。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	